



時には文明社会から離れて

屋久島 山尾春美

昨年の暮れから、隣の草だらけの空き地の金柑の木が実を鈴生りに付けているのに、誰も取りに来ないので、勝手に採らせてもらうことにしました。金柑の木まで草を刈り、道を作り、実を採り、家に帰って実を洗い、切れ目を入れて、三回ほど軽く茹でこぼし、竹串でたくさんの種を取り、水と砂糖を入れて煮詰め、金柑の甘煮をたくさん作りました。甘煮を入れこんだパウンドケーキにも挑戦。それぞれをいろんな人にお裾分けして食べました。お日さまを浴びて、からだを動かし、両手を使い、人とお喋りもして喜ばれる。こんなことが心身を元気にするように思います。

地球によいことは人間が居なくなること…などと過激な考えも浮かびますが、人間も地球の一部ですから、そういうわけにもいきません。先日、嵐の時はさまざまな貝殻が砂浜に揺りあがると教えてもらったので、四つ瀬という浜に出かけ、嵐の収まった凧の渚で三十分ほど貝殻拾いをしました。家に帰って紙の上に並べてみると、その多種多様な美しさやまばゆさに、久しぶりに「世界はこんなに美しい」と心華やぎました。そして、人間

は地球の生物や非生物のなかのひとつにすぎないと心底思えました。

地球に対して謙虚であるために、時々、人間の作った文明社会から離れて、山や川や海など自分の好きな場所に行って、静かに風に吹かれたりするのがよいように思います。

